

# 会報 ビーチing

第36号

## 平成22年度 NPO 法人白神ネイチャー協会通常総会開催される

5月29日〔土〕PM5：30より八峰町ファガスにおいて、22年度通常総会が開催されました。進行には、3月31日に退職して町社会福祉協議会に復職した高橋大樹君が勤めました。

会議に先立ち、本日の出席状況を説明しました。正会員数は、個人会員96名、団体会員4名の合計100名、その内出席者22名、委任状提出者45名で過半数を超えたので会議は成立しました。

始めに加藤町長、産業振興課須藤課長、並びに出席者に謝辞述べられてから、工藤会長の挨拶が始まりました。

一年間を振り返ってみますと、昨年10周年の記念式典を無事終えることが出来ました。そしてもう一つは、総収入が一千万円を超えました。こういうふうになるとは夢にも思っても見ませんでした。今度は新しい10年に向かって、皆さんと力を合わせてネイチャー協会を活発にしていきたいと述べました。

合わせて、事務局体制が変わった事を報告。

高橋大樹君が辞めて後任に、4月1日から金平裕樹君が就任しました。ネイチャー協会には樹がつく名前と縁があり、大樹から裕樹に代わりましたので皆さんよろしくお願ひします。と締めくくりました。

議長には、昨年同様工藤哲弥さんが選出され、議事を速やかに進行して頂きました。



その後日本間において懇親会が行われ、新町議会議員になりました山本優人さんより乾杯の発声をしていただき、にぎにぎしく行われました。



## ブナ植樹シンポジウム～ブナの種子が危ない?!～

6月5日(土) あきた白神体験センターにおいて、ブナシンポジウムが開催されました。

主催は、当協会・海と川と空の塾、後援として八峰町、NPO 法人りすシステム、町を主体に約60名近くの人たちが参加してくれました。

工藤会長が挨拶の中で、前々から開催したいと思っていたのが、2年目にして開催できたのでうれしいと言っていました。これも、りすシステムさんのおかげですね。

次に、海と川と空の塾・代表佐々木正憲さんによる講演が行われました。

演題として、海と川と空の塾15年のあゆみ

1. はじめに私の身分帳
2. 白神山地のふもとへブナを植えるきっかけ
3. なぜ今ブナの植樹なのか
4. ブナを植えて森をつくることはどんな意味があるのか
5. ブナは白神山地のシンボルです
6. むすび

についてお話されました。

そして、国際教養大の熊谷教授をコーディネーターに、パネリストには、秋田自然を守る会会長・鎌田孝一さん、青森県赤石川を守る会会長・中濱和夫さん、工藤会長、能代北高1年・村岡優衣さんが務め、シンポジウムが始まりました。4人のパネラーから、こうあるべきだ、こんなことをやってみたい、について発言して頂きました。

鎌田さんは、とにかく森を守る、森を作るんだと、いろんな意味があるんだ。いっぽうで、入山者のマナーを徹底しないと森を守るときに大変だ。

中濱さんは、人と山の付き合い方の作法、それは極めて大事だ、それを伝えていかなくてはいけない。入山規制の在り方は、人それぞれ違うように、アプローチが違ってもいいのじゃないかと、提言がありました。

村岡さんからは、私は白神山地を自慢したい。自慢するためには、もっと白神山地に触れたいし、また知りたい、と素敵な発言をいただいた。

最後に、工藤会長からは、やっぱりいろいろな話を総合すると、植樹をつづけるのは、人の心を育てる、人とつながる、そして我々の活動の思いを受け継



いでくれる子供たち、次の世代を大人が責任をもって工夫をして育てていかなく  
てはならないと発言しました。

後日、鎌田孝一さんよりお礼の手紙を頂きました。

会場の入りは大変多く、関心の高さを感じました、パネラーとして優衣ちゃん  
を起用したことは、会を盛り上げるのに大きな役割をとなり、彼女もすばらしい  
発言であった。

ただ、本題のブナの実の問題に、切実な問題として受け止められなかったの  
が少々残念に思いました、とありました。

## 編 集 後 記

白神ネイチャー協会 つれづれ作業日記より（ふれあい館に展示中）

3月26日、新たに購入したブナの苗木（約 1,000 本）を新ポットに植える  
作業を行いました。作業員（渡辺、秋田、佐藤（久）、横山、西巻、阿部、6名）

その結果、

ポット種類	ポット数
スリット入りポット (とんでもないポット)	480本
バイオポット (生分解ポット)	523本
合 計	1,033本

**CS POT** とんでもないポットのスリット穴効果とは、単純化して言うと、容  
器の底に施したスリット穴の作用により底部の余分な水を確実に除去し、スリ  
ット穴から十分な酸素が入り込み、根が健全な活動をすることにより、用土内  
で多くの根を形成するということである。このような根は従来の容器ではなか  
なかできない。

バイオポットとは、トウモロコシ等澱粉を主原料とした、バイオマスプラスチッ  
ク製不織布を材料としています。ポットは地中のバクテリア等により、水と CO<sub>2</sub>  
に分解され、地球に戻ります。また、CO<sub>2</sub> は植物の光合成により澱粉となり、  
再びポットの原料となります。

我がネイチャー協会も、環境にやさしい団体になりつつあります。

自然を大切に

広報部 越前谷

平成22年7月2日

## おまけの ビーチ ing

広報部 越前谷さんから早々に原稿を頂きながら、様々な事情で発送が遅れてしまいました。申し訳ございません。

ぶなっこランドで今年、エゾハルゼミの初鳴きを聞いたのは6月1日。2～3日鳴いてからは、パタンと聞こえてきません。聞こえてくるのは、鳥のさえずりと園地内の草刈り機の音。観光客も少ないような…。

さて、草刈りつながりではじまって、事務局からのお知らせがありますので、よろしく願いいたします。

- ◆ ブナ植栽地の下草刈り作業を7月12日（月）～の週、実施予定です。草刈り機を使つての作業になりますので、協力できそうな方は事務局までご連絡下さい。（TEL 0185-70-4211）

また、ポット苗の水やり、草取り作業は随時行っています。

- ◆ ぶなっこランド内施設の一つで、長年閉館してあった**溪流館**が、会員有志の手により復活しました。まだ、一般公開はしてありませんが、やまめ・いわな・あゆ等、真瀬川の魚が泳いでいます。勇ましい泳ぎ姿は天然ならでは？！。是非、見に来て下さい。

※ **溪流館**は、バーベキューハウス&売店の沢寄りにあります。

- ◆ 『白神山地で活躍する人々 - 観光編 -』（弘前大学出版会）定価¥1,050-のところ、会員価格¥550-で販売中です。白神山地の観光資源を考えるうえで参考になります。事務所に見本を置いてありますので、興味のある方は一読ください。

- ◆ 遅ればせながら、ロゴマークを紹介します。白神ネイチャー協会

(association of Shirakami nature) 略称の



asna の文字を組合せており、山（森）と川（水）の循環をイメージしております。